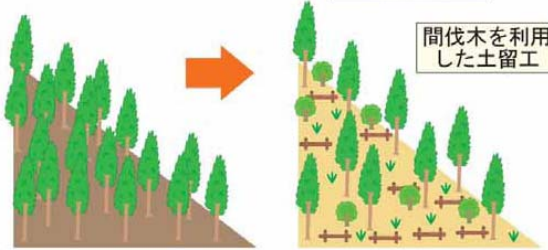


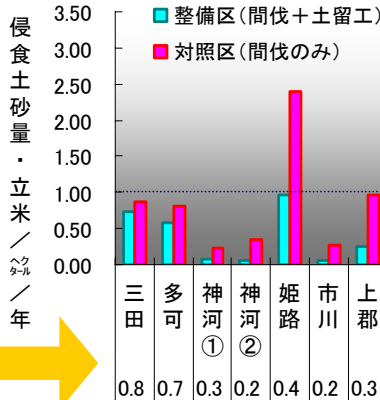
# 県民緑税活用「災害に強い森づくり」事業の効果検証と技術的支援

**【研究成果】** 県民緑税(平成18~22年度)を活用した『災害に強い森づくり』の中で、緊急防災林整備、里山防災林整備、針葉樹林と広葉樹林の混交林整備の3事業について、その事業効果の検証と技術面での支援を行っています。今までに、事業実施に伴い、表層土砂の流出量が半分以下に抑制されること、植栽木においても、樹木根による崩壊防止力が高まっていることを明らかにしました。

## 表層侵食の軽減効果の把握



間伐木を利用した土留工



侵食土砂量の平均抑制比率は0.42となり、整備区の年侵食土砂量は、全ての箇所ですべて1m³以下\*でした。

←(\*)適正に管理された森林の年間侵食土砂量は、1m³以下と言われています。

土砂受け箱を用いた土砂流出量調査の様子です。

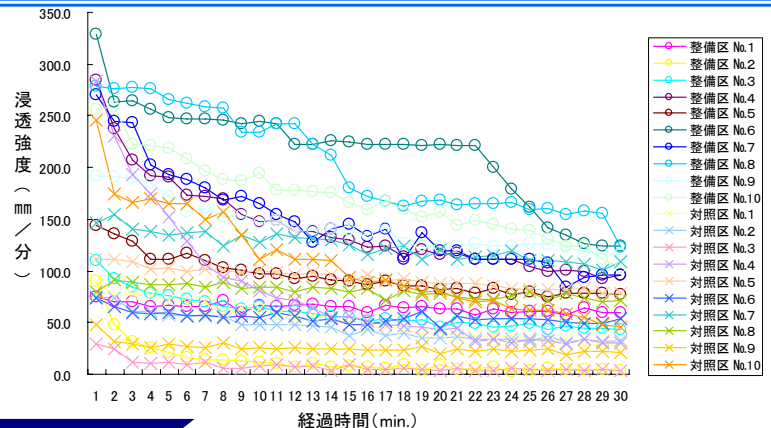


## 土壌浸透能の測定



塩ビ管円筒を用いて(冠水型による測定法)、土壌の浸透能を測定しています。

対照区(間伐のみ)よりも整備区(間伐+土留工)の方が、浸透能は1.8倍高くなり、雨に対する土壌構造の改善がみられました。

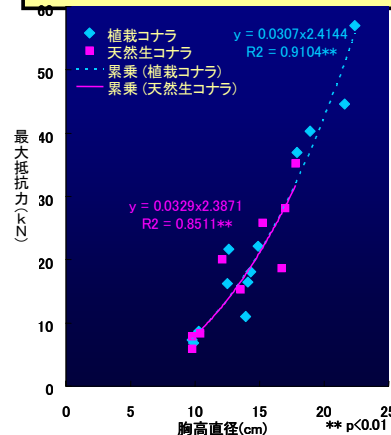


## 樹木根による崩壊防止力の向上



引き倒し試験の状況です。

### 信州大学との共同実施



従来、植栽木の引き倒し抵抗力は弱いと言われていましたが、植栽後20年経過したコナラ植栽木では、同齢の天然更新木と同等の抵抗力があることを、初めて明らかにしました。

**【技術の活用】** 得られた成果は、兵庫県のホームページ上で公表し、県民へのPRに努めています。これらの成果を基に、さらに事業効果を高めるための整備方法を提案し、事業の推進に際して、技術面からの支援を行います。